

令和7年度日南市東郷小中学校 学校評価報告書

学校経営ビジョン	夢や目標の実現に向け、地域と一体となり小中一貫して東郷の子どもを育む
学校経営の視点	『今日が楽しく 明日が待たれる学校』 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「体力」「学びに向かう力」が向上し、分からなかったことが分かる楽しさ、できなかったところができる楽しさ、人間関係のきずなを深め友情を育む楽しさを体感できる児童生徒の育成
学校教育目標	豊かな心で、自ら学び考え、たくましく生きていくことができる子どもの育成～小中一貫した連続性のある教育活動の推進～

重点目標	重点目標達成のための手段	評価項目	評価指標(具体的方策)	学校の自己評価				学校の自己評価分析 ○成果 ▲課題(今後の取組) R7学校評価アンケート分析のコメント	学校運営委員会評価及びコメント
				小学校	中学校	総合	全体		
I 優しい子どもを育てる	豊かな人間性や社会性を身に付けた、自律した生徒を育成する	道徳教育の充実	○道徳の時間の確保と充実 ○“対話的で深い学び”を目指した授業の転換 ○他者を広く理解する態度の育成と他者への配慮の実践化	B	B	B		○小中ともに、年間指導計画に基づき、計画的に授業を進めることができた。 ○中学校においては、学級担任だけではなく輪番制を用い、中学校職員全員で授業に臨むことができた。 ○レインボープラン実施週間や人権教育週間を年間計画に位置付けて、計画的に実施を促すことで、児童生徒の興味関心を高めることができた。 ▲人前で話したり、相手の立場に立って話を聞いたりすることが苦手な児童生徒が多いため、今後も発表と聞き取りの場を意図的・計画的に設定し、生徒の自主的・主体的な表現力を育成していきたい。 ▲研究主任を中心に、実態に即した主題の設定と、研修計画を作成したうえで組織として他者を広く理解する態度の育成と他者への配慮など、道徳の時間に学んだことを、日常生活につなげる実践に取り組む必要がある。	B
		挨拶、気持ちよい返事、感謝の言葉の励行、清掃力の育成	○日常活動の工夫(機会を捉えた適切な指導と凡事徹底の浸透) ○整理整頓と清掃力を高める組織的な指導体制の構築	C	B	B		○主題研修にパーフェクトマスターの活動を位置づけ、学習習慣や生活習慣の定着に取り組むことができた。 ○クリーン・マスターなどを行い、自分の周囲の片付け等を意識させるとともに、清掃の時間に黙々と取り組む姿勢が定着し、自分たちの学校を大切に作る心の育成に努めることができた。 ○縦割りで清掃班を編制することで、高学年のリーダー性の向上を図るとともに、異学年交流を深めることができた。 ○マナーマスターの活動として、中学校は委員会ごとに、小学校は児童会を中心として、あいさつ運動に主体的に取り組むことができた。その効果もあり、自分から元気よく挨拶する児童・生徒が増えている。 ▲自発的な取組状況については、まだ十分とは言えないため、次年度の課題として取り組んでいきたい。 ▲学年や場所により、挨拶の質に差が見られる。時と場に応じた適切な挨拶を指導していく必要がある。 ▲小学校では、気持ちのよい返事についてはまだ意識が低く、授業や行事を通して継続的に指導を行う必要がある。	
		児童会生徒会活動を通しての共生力の育成	○達成感から自立を促す活動の推進(子どもが中心となる活動の工夫) ○福祉・ボランティア活動の推進(地域活動への積極的な参加と貢献)	B	B	B		○みのり集会など、児童会と生徒会が合同で企画し、児童生徒主導で交流を深めることができ、学校全体の活気が高まった。 ○つわぶき植栽や風田浜清掃など天候不良のため中止となったが、参加を希望する児童生徒が多く見られた。 ○運動会等の学校行事において児童生徒が主体的に運営し、責任をもって活動することができた。 ○異学年交流を通して上級生が下級生を思いやり、協力して取り組む姿が見られた。 ▲地域行事や地域主催の活動に自ら進んで取り組む姿はあまり見られないため、手立てをとる必要がある。 ▲自分たちの力で学校生活をより良くしていくための、自治能力をさらに高める工夫をする必要がある。	
		環境教育の推進	○児童会生徒会を中心にSDGsを意識した環境に優しい活動の推進 ○ユニバーサルデザインの充実(整然とした学びの場の設定、児童生徒の活躍の見える化と意欲を高める掲示物の工夫)	B	A	B		○ボランティア活動やSDGsに関連した活動を推進することができた。特に、中学校では、廃油石鹼やグリーンカーテン、空き缶回収等のSDGsの活動に継続して取り組むことができた。 ○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、学習環境や掲示物の工夫を学校全体で行うことができた。 ○ユニバーサルデザインの充実のために、夏休みなどの研修を使い、職員で教室設営等の改善を図ることができた。 ▲小学校では、中学校と比べ、活動が不十分であった。残滓0活動や古紙のリサイクルなどのSDGS活動を推進していきたい。 ▲地域や家庭とさらに連携することで、風田浜清掃など学校外でのボランティア活動に取り組み、環境保全に対する意識を高めていきたい。	

令和7年度日南市東郷小中学校 学校評価報告書

学校経営ビジョン	夢や目標の実現に向け、地域と一体となり小中一貫して東郷の子どもを育む
学校経営の視点	『今日が楽しく 明日が待たれる学校』 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「体力」「学びに向かう力」が向上し、分からなかったことが分かる楽しさ、できなかったところができる楽しさ、人間関係のきずなを深め友情を育む楽しさを体感できる児童生徒の育成
学校教育目標	豊かな心で、自ら学び考え、たくましく生きていくことができる子どもの育成～小中一貫した連続性のある教育活動の推進～

重点目標	重点目標達成のための手段	評価項目	評価指標(具体的方策)	学校の自己評価				学校の自己評価分析 ○成果 ▲課題(今後の取組) R7学校評価アンケート分析のコメント	学校運営委員会評価及びコメント
				小学校	中学校	総合	全体		
2 賢い子どもを育てる	自ら学びに向かい、粘り強く努力する自立した生徒を育成する	分かる授業の充実と学力の向上	○授業力向上4+4の取組・「ひなたの学び」を意識した授業改善と読解力の育成 ○ICTの効果的な活用 ○各種テストの結果分析および改善工夫	B	B	B	B	○研究授業を代表で行い、授業改善への理解を深めることができた。 ○学習スタイルや指導法について、ひなたの学びを意識した授業を支援校訪問において全員が行うことができた。 ○授業において教科の特性に応じたICTやロイロノートを活用し、小テストやアンケートを効果的に行い、基礎的・基本的な知識の定着を図ることができた。 ○CRTやみやざき学力調査結果の分析を行い、校内研修において改善策を考えることができた。 ▲各種テストの結果が今一つだったので、次年度に向けて改善する必要がある。また、授業やテストのやりなおしなどの取組が、保護者や職員は不十分であると評価しており、学業指導について共通理解を図り、徹底した指導を粘り強く続けていきたい。	B
		読書活動の推進	○“旅する読書”の活用 ○くすのきタイムを利用した読書活動の充実(中学校) ○図書館司書と連携した図書館活用の展開 ○中学生やPTA等を活用した読み聞かせの充実(小学校)	B	B	B		○中学生が小学校に行き、絵本の読み聞かせを行うことで、双方ともに読書に関心を持たせることができた。 ○GAYAの会やPTAの読み聞かせ活動を継続して行うことで、読書の効果を高めることができた。 ○中学校は読む読むタイムの時間を新たに設定し、活用することで読書活動に取り組むことができた ▲図書室の利用が十分でないため、次年度は、利用の仕方を含め、活用方法について改善を図りたい。 ▲スマートフォンやタブレットの使用により、読書量が低下しており、本校の喫緊の課題であるため、読書を推進する効果的な手立てを検討し取り組んでいきたい。	
		キャリア教育の推進	○夢や自己実現を目指し、勤労を重んじる態度の育成 ○小中一貫した進路指導の充実と中高連携 ○社会見学や職場体験学習、社会人講話など地域人材の積極的な活用	B	A	A		○中学校ではキャリア教育の一環として、職場体験、高校説明会、講演会を実施し、勤労観等を養うことができた。 ○中学校は、キャリア特別授業を外部講師として招き、将来の進路実現について考えさせることができた。 ○キャリア教育掲示板の充実を図ることができた。 ○小学校では6年生による中学校体験期間を設定し、4月からの中学校生活への見通しをもたせることを教育課程に設定することができた。(3月卒業式後実施) ○小学校では、社会科見学の充実や地域人材の活用した授業を計画的に行うことができた。 ▲小学校のキャリア教育について、児童に目的意識をもたせることをはじめ、更なる指導の改善を図る必要がある。	
		学校と家庭の連携による学習指導の充実	○家庭学習の習慣化・課題の工夫 ○AIDリル持ち帰りによる、家庭での学習習慣の定着と学力向上 ○学級通信や参観日学級懇談での保護者への啓発活動の強化	B	B	B		○中学校では、AIDリルを学習に導入し、タブレットの持ち帰りを開始することで、学校や家庭で個別で自分に必要な学習に取り組める環境を整え、家庭学習の工夫を行うことができた。 ○保護者にAIDリルによる学習についての啓発を行うことができた。 ▲家庭内での学習環境が整っていないため、学習への意欲が高まりにくいと予想される。参観日や学級通信を通し、授業改善や学力向上の取組について積極的に情報を発信する等、理解を深める必要がある。	

令和7年度日南市東郷小中学校 学校評価報告書

学校経営ビジョン	夢や目標の実現に向け、地域と一体となり小中一貫して東郷の子どもを育む
学校経営の視点	『今日が楽しく 明日が待たれる学校』 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「体力」「学びに向かう力」が向上し、分からなかったことが分かる楽しさ、できなかったところができる楽しさ、人間関係のきずなを深め友情を育む楽しさを体感できる児童生徒の育成
学校教育目標	豊かな心で、自ら学び考え、たくましく生きていくことができる子どもの育成～小中一貫した連続性のある教育活動の推進～

重点目標	重点目標達成のための手段	評価項目	評価指標(具体的方策)	学校の自己評価				学校の自己評価分析 ○成果 ▲課題(今後の取組) R7学校評価アンケート分析のコメント	学校運営委員会評価及びコメント	
				小学校	中学校	総合	全体			
3 たくましい子どもを育てる	安心・安全で、心身ともに健康でたくましく成長する生徒を育成する	健康安全・体育的行事の充実	○各種健診結果に基づく健康相談の実施 ○学校保健委員会の充実 ○スクールスポーツプランを活用した体育学習及び保健学習の指導を実施	B	B	B	B	○各種検診結果について、計画的に保護者に配付したり、治療について、保健日より長期休暇前に受診のお知らせを配付したりすることで治療率のアップを図ることができた。 ○学校保健委員会に外部講師を活用することで、性教育について児童生徒、保護者、職員の関心を高めることができた。また、テレビでも取組が紹介された。 ▲歯科検診後の受診率があまり良くなかったため、家庭への啓発が必要である。 ▲児童の個人差が大きく、授業の中で体力の落ち込みを改善する手立てがあまりできなかった。	B	○包括的性教育の徹底を継続していきたい。低学年から取り組めることが望ましい。 ○薬物乱用防止教室は、やってほしい。県内でも逮捕者等でている。 ○外部講師や講演などこれからも利用できると思う。 ▲保護者の意識の低いものが多い気がする。
		緊急時における適切な対応できる児童生徒の育成	○火災・地震・津波・不審者対応に関わる訓練の実施 ○校内安全点検の徹底	A	A	A		○避難訓練に真剣な態度で臨み、避難経路や手順を正しく理解して行動できた。 ○交通安全教室等の指導により、登下校時のルール遵守や事故防止への意識が高めることができた。 ○防災学習を通して災害の危険性を予測し、自分の命を自分で守るための基礎知識を得ることができた。 ○校内安全点検を定期的に行うとともに、随時情報を共有し、修繕に繋げることが出来た。 ▲登下校中の事故を未然に防ぐため、周囲の安全確認や正しい状況判断などをより意識させる必要がある。 ▲避難訓練等実施されているが、形式的であり、より危機感をもった指導の徹底が必要である。		
		食育や健康教育の充実	○栄養職員との連携した食の教育の実施 ○外部講師を活用した性教育の充実と命を大切にす教育の推進 ○部活動への積極的参加(計画的で充実した活動の工夫) ○メディアコントロールに関する学習教科	B	B	B		○性に関する指導や薬物乱用防止教室を通じ、自分の体と心を大切にす意識が向上させることができた。 ○定期健診の結果を自分の生活に反映させ、健康管理に努める児童生徒の割合を増やすことができた。 ○レインボープランを確実に実施し、計画的に性教育を進めることができた。 ○栄養教諭と連携し 食に関する授業をなど食育指導を積極艇に行うことができた。 ▲性に関する生徒や保護者の認識が甘く、危機感を持つ職員との温度差が大きい。授業を行ってはいるが、性に対する考えが正しく定着していない。関係機関との連携にも力を入れていきたい。 ▲小学校では、昼休みの外遊びが少ないため、計画的に遊ぶ機会を増やし体力向上を図りたい。 ▲中学校では、部活動の入部率が低く、運動に関する意識も低いため、学校全体で意識を高めていきたい。 ▲メディアコントロールについて生徒と保護者、職員と大きく危機意識の相違を感じる。生徒だけでなく保護者も対象とした講演会やルール作りを徹底することで意識改革を図りたい。		

令和7年度日南市東郷小中学校 学校評価報告書

学校経営ビジョン	夢や目標の実現に向け、地域と一体となり小中一貫して東郷の子どもを育む
学校経営の視点	『今日が楽しく 明日が待たれる学校』 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「体力」「学びに向かう力」が向上し、分からなかったことが分かる楽しさ、できなかったところができる楽しさ、人間関係のきずなを深め友情を育む楽しさを体感できる児童生徒の育成
学校教育目標	豊かな心で、自ら学び考え、たくましく生きていくことができる子どもの育成～小中一貫した連続性のある教育活動の推進～

重点目標	重点目標達成のための手段	評価項目	評価指標(具体的方策)	学校の自己評価				学校の自己評価分析 ○成果 ▲課題(今後の取組) R7学校評価アンケート分析のコメント	学校運営委員会評価及びコメント	
				小学校	中学校	総合	全体			
4 地域・家庭との連携・推進	家庭や地域と連携し、地域から誇りとされる開かれた学校を創造する。	福祉・ボランティア活動の推進	○地域の歴史や産業を知る活動や地域の将来を考える地域活動への積極的な参加 ○創造的で探究的な学習の充実	B	B	B	A	○つわぶき植栽や風田浜清掃のボランティア活動については、参加を希望する児童生徒が多く見られる。 ○中学校8年生では、総合的な学習の時間において、「職場体験学習」「海外日本人学校との交流会」等を行うことで、創造的で探究的な学習の充実を図ることができた。 ▲地域での人材をより効果的に活用するための、9年間を見通した年間指導計画の作成が不可欠である。計画を作成し、活動を継続していくことにより、地域への社会参画の醸成や勤労観・職業観の形成の深層化を図っていききたい。 ▲地域ボランティアや地域の活動に児童生徒自らが積極的に取り組む姿が減少しているため、地域と連携し、機会を増やすことで、積極的な参加を促していききたい。	A	○学校だより、ホームページ、学級通信により、学校と地域とのつながりを大事にしていききたい。 ○児童生徒、保護者と協働で参加できるボランティア等に、地域と連携し、計画できれば良いと思う。 ○地域協議会と連携し、児童生徒がボランティア等に参加しやすいようにしたい。
		地域を愛し、愛される子どもの育成	○地域の方々との交流や地域資源を生かした体験活動の充実 ○新聞、テレビ等のメディアを活用した体験活動の地域への紹介	A	B	A		○小学校では、3年「さとねり」、5年「田植えの活動」の授業で、メディアによる地域への紹介を行うことができた。また、6年は高速道路のIC橋記念で体験学習を行うことができた。 ○地域コーディネーターを積極的に活用し、地域の方を招いたり、地域の活動に参加することで、郷土の歴史や産業への誇りと愛着が深めることができた。 ○中学校では、草団子やキンカンの甘露煮の調理実習に地域の人材を活用することで、交流を深めることができた。 ▲次年度は、家庭や地域の声をさらに学校運営により反映させ、教育課程を編成することで、地域と一体となった教育活動を推進したい。		○地域との連携は、子どもよりも、保護者、大人の関わり方だと思う。イベントや祭りなど参加しやすいものを計画し、興味をもっていただけるといいと考える。世代の差もあるため、新しい取組が必要だと思う。
		家庭・地域への積極的な情報発信	○回覧板を活用した学校だよりの全家庭配布とHP掲載 ○学級通信等の充実と、返信等による双方向の連携推進 ○信頼され・応援される学校づくりのためのPTAや学校運営協議会の意見を取り入れた積極的な連携	A	A	A		○学校だよりを毎月発行し家庭や地域に配付したり、ホームページで学校行事を紹介したりすることで学校の様子を発信することができた。今後も学校だより、HP掲載などの情報発信を継続したい。 ○学級・学年通信に返信欄を設け、学校と保護者がお互いに意見交換ができる環境を整えた。 ○自治会等の会議や地域の活動に積極的に参加することで、学校の状況を報告することができた。今後も地域とのつながりを大切に連携していききたい。 ▲PTA活動や学校内外での会議が多く、参加者の負担が役員不足につながっていることが考えられる。会議の効率化を図り、回数を減らすなどスリム化することで、将来の人材の確保に努めたい。 ▲学校からの配付物に対して、子どもが保護者に渡しておらず学校の情報が正しく伝わっていないことが考えられる。日頃の提出物の徹底を図るとともに、安心安全メール等を活用し、改善策に取り組みたい。		○学校が例年通り活動していて、すばらしいと思う。

※4段階評価【A:期待以上100～76% B:期待どおり75～51% C:やや期待を下回る50%～26% D:改善を要する25～0%】